

- ・国道3号54kの当該箇所は、本年度8月に上り線側盛り土法面に法肩より土砂の流出が見られた。応急対策として崩壊部を土嚢で保護し、雨水の浸入防止のためブルーシートを設置している。
- ・今後の対応策検討の為、TEC-FORCEアドバイザーに現地診断をしていただき、意見を伺った。

参加者:九州工業大学 ^{ながせ}永瀬名誉教授、^{ひろおか}廣岡教授、北九州国道事務所

● TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断(令和7年12月11日)

現地診断



現地診断



防災検討会



【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

・擁壁の設置目的が不明かつ構造物自体も古く、また基礎として適した地盤ではないのかもしれない。基礎部が吸い出されて空洞になっている可能性もある。擁壁下の直接的な空洞の確認を行った方が良い。